神石高原町議会だより　第2号

平成17年4月15日発行

元気なグループ紹介

豊松・追谷地区のみなさん

水仙の里づくり

追谷地区の水仙の里は、昭和の初期、当地区に住んでいた、下川孝信少年が、ラッパ水仙の種球を、一個六銭で購入し、植えられました。

戦後沢山に増えたので、近所の子供たちに手伝わせて、約一・五㎞の農道の端に植えました。

その後毎年四月上旬になると山吹色の眞黄色の花がこぼれるように見事に咲くようになりました。

地域の人は、農作業を一日休み、道端で手料理を囲み、地域の住民が花見の宴を開いたのが「水仙祭り」の始まりです。

豊松村内の近郊の人や遠くは広島・岡山からも訪れる人が増え、カラオケや子供神楽などで楽しい一日を過ごしています。

昭和五十三年に水仙が村花に定められ、昭和五十六年に、NHKの「新日本紀行」で全国に放映されました。

昭和六十三年に県の補助事業「農村集落環境整備パイロット事業」の指定を受け「水仙公園」の整備を行いました。この事業の特色は、地域住民の発想と住民の全員参加による手作りの整備を行うと言うことです。

内容は、水仙公園の造成（約十アール）新品種の導入、遊歩道、花壇、休憩所、トイレ、水道、ベンチ、ゲートボール場の整備などが行われました。

現在は地域住民により保全管理され、地域の活性化とコミュニティの場として活用されています。

「永久の春、忘れず咲けよ水仙の花、見る人は時に変われど」

（大正生まれの平成老人）

編集後記

決算認定、予算審議、条例案、本会議で延べ五十一人の議員が質問に立ちました。全員協議会を含めると、議論一〇〇戦。実りあって、まさに百花繚乱（？）。

長期戦、終わってみれば、外は真っ白雪景色。昨年からの天候異変。新潟地震にスマトラ大地震に大津波、そして五日前の福岡地震。まさに大地が震えている。

そして今日は春の大雪。一面、白、白、白。

天は、われらに何を告げようとするのか。

「夢」多かれば、一念、天に通ず。

それにしても、白とは…。

■住所／広島県神石郡神石高原町小畠二〇二五
TEL 0847-89-3340
FAX 0847-85-3394

この広報紙は、環境にやさしいR100（古紙配分率100%）の再生紙と、大豆インキを使用しています。